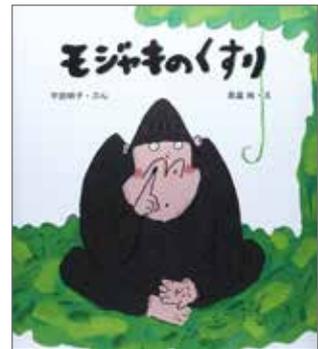


# これがオススメ! 読み聞かせ本

学習指導要領で読み聞かせがすすめられて、読み聞かせについてのたくさん本が出版されています。また、ブックリストもたくさん出ていますが、さて実際に子どもたちに読もうと思うと、どの本がいいのか、どうやって読んであげたらいいのか、困ってしまいます。「これなら楽しく読み聞かせができるよ」という本と読み方を紹介しましょう。

低・中学年向き



## モジャキのくすり

平田明子・作  
高島純・絵  
(ほるぶ出版)

題名を読み、かわいいゴリラの絵を見せると、子どもたちは「どんな薬なんだろう」と好奇心に満ちた顔になります。

主人公のモジャキは、自分だけのちよつと恥ずかしい楽しみがあります。それは、「鼻くそを食べること」。ある時、それをフクロウのロニンに見られ、思わず「あたまのよくなるくすりだよ」と言ってしまったことから、困ったこととなります。

「鼻くそを食べる」と聞いて「やだ」と言う女の子。モジャキが鼻くそをロニンの大事な物と交換すると「うわあ」とどよめきが起こります。

「絶対だれにもいわないで」と言ったにもかかわらず、薬の噂は森中に広がり、多くの動物がやってきます。だんだん、うそをついていることが嫌になり、頭が痛くな

るモジャキ。心配した森の動物たちは、自分たちがモジャキからもらった薬をあげます。でも、それは薬ではありません。鼻くそです。「モジャキは薬を食べると思う?」と聞きながら、ペーシをめぐり、色々な表情に変化する絵を見せます。

本当のことを伝え、謝ったモジャキは元気になります。心配していた子どもたちも、ほっとした様子。もし自分が、違うことを言ってしまったらどうすればよいか聞いてみると、「嘘は言わない」「すぐにごめんねと言う」などの考えが返ってきました。

友達の手前、つい……ということは子どもの世界でもあります。その時にどうすればいいかヒントをくれる絵本です。絵本の内容は、絵からも伝わってきます。そして子どもの心を動かす力があります。選書する際の大事なポイントです。

全学年向き



## みずとはなんじゃ?

かこさとし・作  
鈴木まもる・絵  
(小峰書店)

かこさとしさんの絵本を読んだことや、読んでもらった経験がある子どもは多いと思います。今回は、かこさん最後の科学絵本を紹介します。絵は、絵本作家・鳥の巣研究家の鈴木まもるさんです。

ある日の休み時間、梅雨でもないのに廊下のタイルが濡れていました。子どもたちは大騒ぎです。「滑るので気を付けましょう」と校内放送。この水がどこからきたのか、みんな不思議で仕方ありません。そこでこの本の登場です。

早速この出来事を絡めて作者を紹介しましょう。「からのパンやさん」を知っていますか」と聞くと、あちこちから「知ってるー」という得意げな声と嬉しそうな顔。今回の本も同じ作者であることや、タイルの上にあった水の秘密がわかるかもしれないことを伝えると、視線が本に集中します。

読み進めると、水は色にもおかないことや姿を変えることがわかってきます。人の体の60〜70%を水がしめっていると読むと、子どもたちは「え〜っ!」とびっくり。海の汚れについてふれた場面では恐竜の絶滅について語り出す子、空の水が固まるところで「氷」とつぶやく子、ひょうが降って車がへこんだ経験を話しに来る子。低学年には難しいかなと思いましたが、子どもたちは今まで経験してきたことやもっている知識を結びつけて、様々な考えを言ってくれます。子どもたちのパワーはすごいですね。

読み手が作者や画家の思いを知っていると、本の世界が広がります。ストーリーだけでなく、言葉や絵に込められたメッセージを伝えることができるからです。すてきな本を読んでいきたいですね。